

# ピア・レスポンスにおける沈黙は何を意味するか

## －沈黙明け行動の種類と可能性－

立見冨貴(名古屋大学大学院生)

### 1. はじめに：問題の所在と先行研究

#### ピア・レスポンスなどの授業実践

⇒ やりとりが円滑に進んでいる箇所には焦点が当てられることが多く、沈黙は注目されにくい。  
 ⇒ 沈黙は、言語活動の一時的な停滞と捉えられる可能性がある(cf. 司会役の役割と意義: 胡2018)。  
 ⇨ **沈黙 = 学習者の思考の過程が、実際の会話の中で可視化できる形で現れたもの**  
 ⇒ **沈黙そのもの注目する価値も十分にあるのでは？**

**先行研究** a.) 水野・柴田・依山(2019): 討論の「行き詰まり」(および、その後の話題展開)に注目  
 b.) 武藤(2013): 沈黙には「考えるシンボル」という価値があることを主張  
 ⇒ **沈黙が生じた後、参加者がいかにやりとりを再開し、ピア・レスポンスという文脈の中で沈黙がいかなる意味を持っているかを論じている研究は、** 管見の及ぶ限りでは、見当たらない。

**研究課題**

- ① 沈黙の要因
- ② 沈黙明け行動の種類と特徴
- ③ ピア・レスポンスにおける沈黙の意味

を明らかにする。

### 2. 調査概要と分析方法

**分析データ:** 国立国語研究所日本語教育研究領域が公開している「日本語学習者のコミュニケーション研究」の中の「留学生ピア・レスポンス教室談話データ」。2015年9月から2016年1月にかけて日本国内の大学で行われた全15回(各90分)の授業において行われたディスカッションの談話が録音され、宇佐美(2011)に従い、文字化されたもの。本発表の分析データは、そのうちの「第6回授業(「はじめに」と先行研究を表現する)」である。

**分析対象(=本研究における「沈黙」とは):** 滝浦(2008)の「発話の切れ目などに自然に短いポーズ(pause: 休止)が生じるが、沈黙(silence)はポーズよりも長く、発言権を取ろうとする参加者がいないことが示される」という記述を踏まえて、BTS]での表記における「沈黙～秒」を分析対象とした(※「少し間」は分析対象外とした)。

**分析方法:**

- ① 沈黙が生じた位置によって、「やりとり開始前」「話題の内部」「話題の切れ目」に分け、沈黙前後の文脈に基づいて沈黙の要因を特定した(【表2】)。具体的には、産出された具体的な発話の意味・機能、相互行為上の規則、語用論的な規範、前後の話題の関係を手がかりとした。
- ② 沈黙明け行動 = 「《沈黙》直後の第1発話」を、朴(2015)、張(2018)などを参考にして、発話者の役割別に4類30種の発話機能に分類し(【表3】)、分析を行った。
- ③ ①、②の分析を踏まえて、沈黙と沈黙明け行動を含むやりとりの軌跡を記述し、適宜、授業前後に提出された論文の原稿を照らし合わせ、修正過程を観察することで、ピア・レスポンスという文脈において沈黙がいかなる意味を有するかについて考察を行った。

### 3. 分析と考察

#### 3.1. 何を要因として沈黙は生じるか

★全データから、**合計241回**の「沈黙」を抽出  
 ⇒ **ヘアによってばらつきがあった(最小2回～最大22回；平均は約10.5回)**

★「やりとり開始前」  
 ⇒ 「個人的水準の活動」(60回)を要因とする沈黙が最も多い  
 ⇒ これは「沈黙」全体の中でも最多(全体の約24%)

★「話題の内部」  
 ⇒ 「**思考レベル**」(57回)と「**表現レベル**」(13回)を要因とする沈黙が特徴的  
 ⇒ 参加者は、**沈黙を利用して、沈黙後に行おうとする「提案」「判断」/「説明」のために、思考を巡らせたり、適切な表現を検討したりする**

★「話題の切れ目」  
 ⇒ 沈黙は「**話題の切れ目**」を暗示するマーカーとしても機能  
 ⇒ 「**前話題の継続**」(12回)、「**話題転換**」(27回)、「**役割の交替**」(14回)、「**議論の終了**」(24回)が観察された

#### 3.2. 沈黙明け行動の種類と特徴

★**沈黙明け行動** = 「《沈黙》明けの第1発話」は、  
**読み手が行う場合が相対的に多い**(150回, 約62.2%)  
 ★**読み手**による沈黙明け行動：  
 「質問」(25回)⇒「感想」(17回)⇒「確認」(15回)⇒「判断」(14回)⇒「提案」(11回)  
 ★**書き手**による沈黙明け行動(56回, 約23.2%)：  
 「説明(具体化・補足を含む)」(14回)  
 ⇒「確認」「指摘・提案の要求」「意見・意志の表明」(各5回)  
 ★**先行研究(朴2015)と比較すると...**

「訂正」「返答」が少なく、「判断」「提案」「説明」「継続(非実質的発話)」が多い  
 ことが、沈黙明けという特殊な談話位置の特徴  
 ⇒ 「訂正」「返答」が少ないときには、**出現位置(=沈黙明け)による要因が強ク影響?**  
 ★「訂正」「返答」を行うときは、**話者は指摘事項/返答内容に関してある程度の確信を持っている**  
 ⇨ **沈黙: 「訂正」; 話者が思考を巡らせ、迷ったり悩んだり躊躇したりする過程が反映される**  
 「返答」; 直ちに応答できない = 質問が難解、答えの準備が必要、直には納得できない

#### 3.3. ピア・レスポンスにおいて沈黙は何を意味するか

★沈黙がピア・レスポンスの進行上、ポイントとなる位置で現れており、学習者にとって「**学び**」の兆候となりうる  
 ★**沈黙明け行動として発現した「説明」「指摘・提案の要求」「提案」「判断」を契機とする一連のやりとりが、論文の原稿の修正につながる場合がある**(※会話例1)  
 ⇒ 学習者は沈黙明けのやりとりを踏まえて、論文の内容や表現などの修正を行っている  
 ⇒ **読み手の沈黙明け行動(=「提案」「判断」)が出発点となる場合の方が、論文が修正されやすい**  
 ★**沈黙(=思考レベル)の解釈の可能性:** 「ブレイクダウン」という概念について、  
 ①**事前に調べたこと(既有知識)を思い出そうとする**, ②**複数の説の案の中から最適なものを選択する**, ③**予想外の質問により指摘事項の重要性に気づき、対応を考え始める**  
 ⇒ **5秒間の沈黙だが、学習者は様々な思考している可能性がある = ★ 価値のある沈黙**  
 ★**授業前の提出論文: 説明なし ⇒ 授業後の提出論文: 脚注に定義が付け加えられている**  
 ★**本題に関するやりとりが終了した後の(沈黙後にみられる)「アフタートーク」(=雑談的なやりとり)にも「学び」の機会として重要な価値がある**(※会話例2)  
 ★**アフタートークの効果:**

- ①**過度な沈黙が生じ、雰囲気が悪化するのを防ぐ**  
 ⇒ 〈書き手がどのような人物か〉が話題になることが多い  
 ⇒ 参加者の興味が〈論文の内容〉から〈書き手そのもの〉に移っている
- ★ **参与者間に良い雰囲気をもたらす & 相手を知ることはペアを信頼することにつながる**  
 ②**議論にスムーズに復帰するための下地を形成する...** a.) アフタートークの最中に突然本題に復帰するような例  
 b.) 議論が終了したペアから話すがのをやるよう指示した場合

【表 3】沈黙明け行動の種類

		書き手	読み手	◎(不明)	
実質的 発話	A. 質問	・ 質問	1	25	16
		・ 確認	2	1	5
		・ 言い換えによる確認	2	1	
		・ 指摘・提案の要求	2	6	
	A. 要求	・ 行為の要求	1	2	1
		・ 説明	10	3	
		・ 具体化	1		
		・ 補足	1		
B. 回答	・ 意見・意志の表明	5	1	3	
	・ 提案	1	1		
	・ 判断	1	1		
	・ 訂正	1	1		
B. コメント	・ 感想	1	2		
	・ 関係づくり	3	3	1	
	・ 開始	1	2		
	・ 継続	7	12	2	
非実質的 発話	B. 表示	・ 承認	5	6	
		・ 否認		4	1
		・ 感情		6	1
		・ 終了		7	1
		・ 同意	3	2	
		・ 話を始める		3	
		・ 話を再び始める		5	
		・ 話を進める		1	
		・ 話題のメタ的表示	1	5	1
		・ 話を終了		1	1
	合計		56	150	35

【会話例 1】 (G1-1)

3	3	*	S01	この『ブレイクダウン』っていうのは、何ですか？
4	4-1	/	S02	えっと… <b>沈黙 5 秒</b> あ、『ブレイクダウン』と、えん、例えばあの英語で、えー、
5	5	* <th>S01</th> <td>うん。</td>	S01	うん。
6	4-2	* <th>S02</th> <td>たぶん(少し間)これです。</td>	S02	たぶん(少し間)これです。
7	6	* <th>S01</th> <td>ああ、dawn。</td>	S01	ああ、dawn。
8	7	* <th>S02</th> <td>うん、つまり、会話#会話がうまく進められ、られ、ません、という…、という…{;}。</td>	S02	うん、つまり、会話#会話がうまく進められ、られ、ません、という…、という…{;}。

S02の授業前の提出論文  
 今回の研究は、あいづちは自然談話を促すことを明らかにした。瀬川(2009)に、ブレイクダウンの概念によって「ハ」を「ユエ」などのあいづちはあまり役に立たない述べられているが、あいづちが会話の成立にとって不可欠の重要な役割を持っていることを明確に認められている。また、村田(2000)<sup>3</sup>はあいづちが「開いている」という信号・感情・態度の表示としてturn-takingに寄るまでと指摘している。あいづちの機能だけでなく、その分類、使われる頻度、場合、対象などについての研究も非常に多い。  
 『ブレイクダウン』というのは、書意が濃く、もしくは一方が話し継ぎに促さないと書意が通らないという研究も非常に多い。

【会話例 2】 (G3-2)

331	257	*	S15	<b>沈黙 6 秒</b> や、ま、それは、各自考えることで。
332	258	*	S13	はい。
333	259	*	S15	うん。
334	260	*	S15	<b>沈黙 5 秒</b> 全然…、話、変わるし、あの、雑談だけぞ〜くらい、あの、か、が、学業とか行く?、行ったりする?。
335	261	*	S13	え、「大学 A 祭」?
336	262	*	S15	「大学 A 祭」や、「大学 A 祭」じゃなくて、他のところ。
337	263	*	S13	行ってないです。
338	264	*	S15	どんどん行ったほうがいいよ。
339	265	*	S13	なんか、「大学 F」の、1 回行ったことあります。
340	266	*	S15	あ、ほんとに?。

### 【表 2】ピア・レスポンスのディスカッションにおける沈黙の要因

開始前	開始時	切替前	切替時	特定困難	合計						
個人的水準の活動	2	2	5	2	2	4	5	3	3	5	2
コメント順の未決定											
指摘できる箇所なし	1			1							
思考レベル	7			7	2	1		2	5	4	1
表現レベル	2									1	1
指摘に伴う配慮				3	1					2	1
相手の反応なし										1	
思考の停止											
前話題の継続											2
話題転換	1	2	1		2	1	1		1	1	3
役割の交替	2	1	1						1	2	1
議論終了	1	1	1						3	2	5
特定困難									5	15	16
合計	12	8	6	18	8	4	5	11	16	4	14

  

開始前	開始時	切替前	切替時	特定困難	合計	
個人的水準の活動	8	3	1			12
コメント順の未決定	1	2	1			4
指摘できる箇所なし	1					1
思考レベル	3	2	1	1	3	8
表現レベル	1					1
指摘に伴う配慮						
相手の反応なし	1					1
思考の停止						
前話題の継続						
話題転換	1	1	1			3
役割の交替	1	1	1			3
議論終了	1	3	1			5
特定困難						
合計	19	7	10	3	22	15

【主要参考文献】 胡方方(2018). ピア・リーディング授業の話し合いにおける司会役の役割と存在意義。一橋日本語教育研究, 6, 31-40./ 水野瑛子・柴田龍希・依山雄司(2019). 討論の行き詰まりに対する話題展開—日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較—名古屋大学日本語・日本文化論集, 26, 35-55./ 武藤理恵(2013). 言語活動における沈黙の意味—沈黙は言語活動の停滞か—言語文化教育研究, 11, 175-189./ 朴惠美(2015). ピア・レスポンス活動における質問の機能。一橋大学国際教育センター紀要, 6, 109-121./ 滝浦真人(2008). ポライトネス入門。研究社./ 宇佐美まゆみ(2011). 改訂版: 基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2011年版./ 張未末(2018). 日本語母語場面と接触場面における雑談の話題展開の方法。早稲田日本語研究, 27, 25-36.